

第4回 苫小牧市地球温暖化対策市民検討会

議 事 録

日時：平成20年9月24日（水）18：30～20：30

場所：市役所9階 91会議室

----- 議 事 内 容 -----

1. 開会あいさつ

会長から開会のあいさつ

2. 第3回市民検討会の論点整理

資料1として、市の施策に対する削減効果に関する質問があったため、削減量の試算を行った。市の施策の他、国・道の施策との連携、市民の取組、事業者の取組を合わせて24万7千トン削減の目標としている。資料2として、森林の吸収量について目標を立てられないかとの質問があったため、植樹に関する指標を面積から本数に変更し、その吸収量を試算した。資料3として、キャッチコピーとして事務局案を5つ提案した。第5回市民検討会で、委員からの案も含めてキャッチコピーを決定したいため、次回検討会前までに案を提出していただきたい。また、雪氷熱エネルギーに関して市独自で調査研究を実施するかという質問について、担当部署に確認したところ、現時点でその予定はないということであった。

【質疑】

- (委員) 資料で算出されている植樹の吸収量が、24ページ「削減量の目安表」の森林吸収量として数値が入るのか？
- (事務局) 目標値として数値が入るかどうかは別だが、森林吸収による削減量は0.007%となる。
- (会長) 前回の議論により、小さな数値であっても入れるということであったため、削減の目安表に入れる。
- (委員) 資料では23万本の植樹を行っていくとあるが、植える場所はあるのか？
- (事務局) 目標年次までに計画されている公園、道路、河川の整備について、植樹する高木と低木の本数の積み上げが11万3千本、私有林・市有林での植樹で11万6千本となり、あわせて23万本となる。
- (委員) 資料3のキャッチコピーに関する意見の提出はいつまでか？

- (事務局) 10月15日次回検討会の前日(10月14日)までに事務局に提出していただきたい。
- (会長) 第5章について何かご意見はあるか?
- (委員) 35ページに「白熱灯から蛍光灯への転換」があるが、実際は蛍光灯への転換はほぼ終えていると思う。今後のことを考えると、LED照明を加えた方がよい。
- (会長) この文章にLED照明を追加する。
- (委員) 重点施策の排出量の積み上げに関して、7.9万トンに止まっており、目標である24万7千トンから足りないのではないか。
- (事務局) 排出削減のシナリオの中で、事業者による削減量が多いものの、この部分が数値としてカウントできない施策となっているためである。又、他にも道や国の施策などもあるためである。
- (委員) 重点施策の中でも市民に対する努力目標である1人1日1.1kgが大半を占めているものの、事業者に対する努力目標がない。大きな削減目標を掲げているのに、具体的な重点施策には事業者からの数値が上げられてきていない。
- (委員) 31ページで冷蔵庫の使い方があげられているが、買い換えについて挙げられていない。特に家電の中でも冷蔵庫の買い換えが効果があり有効だと思う。ドイツでは省エネ型冷蔵庫への買い換えで25000円程度の補助がでるというが、こうした投資に対する見返りを、減税などの形として国に要求していく必要もある。テレビの買い換えでもブラウン管から液晶テレビに買い換えれば削減量は大きくなると思う。
- (事務局) 31ページ下に「省エネ家電を選択しよう」で家電製品の買い換えについてあげている。
- (委員) 夏の過ごし方を見直そうという箇所、1日1時間冷房をやめましょうとあるが、苫小牧で冷房が普及しているのか?自宅では冷房を設置したが年間を通して使う必要がなかった。周辺の住宅でも設置している家は少ない。苫小牧市の気候を考えると、冷房の省エネで削減というのは難しいため、削除してはどうか。
- (事務局) 昨年、温暖化に関するアンケート調査を行った結果では、約20%の人がエアコンを保有しているとなっている。
- (委員) 市内でも高气密の住宅が増えてからエアコンの設置件数が増えている。又、大気汚染やアトピー、花粉症の問題が出てからエアコンが売れてきている。買いに来る方は20歳代の若い夫婦が多く、小さい子供を抱えている夫婦は非常に繊細に考えている。冷房については削除することはないかと考えている。
- (会長) 今後のことも考えて冷房に関してはあっても良い。
- (委員) 苫小牧市だからこのようにしているという、市の気候風土に即した、独自の施策が見えない。
- (事務局) 市民・事業者の取組の多くは北海道環境宣言から引用しているものの、32ページのその他の施策については、市独自で考えたものである。太陽光発電やペレットストーブ、マイバッグの利用等があげられる。また、事業者分に関しても北海道環境宣

言の他に市として追加した部分もある。

- (委員) 道の環境宣言から引用している部分が多く、市の独自性がわかりづらくなっている。表紙だけ変えればどこでも使えるようなものではなく、苫小牧市ならではの施策が感じられない。
- (委員) 市の独自性で言えば、市の地下から出る天然ガスがある。近年では天然ガス自動車もあるし、地元から産出されるのだからもっと活用できると良い。
- (委員) 苫小牧市は工業都市としての特徴があるから、企業に対する施策があると特徴が出るのではないか。天然ガスを工業で活用するということがあげられる。
- (委員) 都市ガスが天然ガスに切り替わっているが、都市ガスの区域を拡大することは考えられないか？
- (事務局) 苫小牧ガスが都市ガスとして供給しており、その区域からはずれる部分はプロパンガスを利用している状況である。区域を広げるためには、苫小牧ガスがどれだけパイプを伸ばせるかということであり、徐々に伸ばしていくのではないかと考えている。
- (委員) 都市ガスの区域であっても全ての人が天然ガスを使っているわけではない。又、天然ガスに関しては、排出される二酸化炭素の量は他とそれほど大差はなく、温暖化対策としては役に立つものではない。
市民には1人1日1.1kgという目標があるが、企業に対してもこうした目標は与えられないものか？1事業所1日何kgとしてしまうと業種によって状況が違うため難しいと思うが、工業都市として企業も負担をするといった部分は必要である。それは工業都市としての特徴ともなる。
- (委員) そうした意見は1回目に他の委員からも出ているため、追加した方がよいのではないか。
- (会長) 事業所に関する目標値については、意見があったということを報告書にまとめていきたい。その他に、重点施策の内容の選択についてこれでよいのかという点も検討いただきたい。たとえばエコドライブとあるが、皆様ご存じであろうか？
- (委員) JAFのエコドライブ講習会に2回とも出たが人数に余裕があるため出られた。知らない人が多いのではないか。周知徹底する施策が必要だし、参加しやすい日時を調査して日程を決める必要がある。又、指標に目標年次までにエコドライブ講習会20回とあるが、年間2回程度では回数が足りないと思う。エコドライブで走っていると、どんどん抜かされていく状況を見ると、ほとんどの人がエコドライブのことを知らないのだろうと思う。
- (事務局) 重点対策⑥で、出前環境講座を全ての町内会で行うこととしており、その中でエコドライブについても広めていくことを考えている。
- (委員) ハイブリッド自動車の利用が載せられているが、いすゞ自動車が進めているクリーンディーゼルについても、大型車は入れていくべきだと思うから追加してほしい。

- (委員) ワンコインバスとエコドライブについては宣伝が足りない。ワンコインバスはまだ知らないという人も多い。エコドライブについても初めて知った。こうしたことを広報で宣伝したほうがよい。
- (会長) それではワンコインバスやエコドライブについても重点施策とした方がよいため、重点施策とすることとして報告書にまとめる。
- (委員) 40 ページでBDF と天然ガスの公用車とあるが、実際導入したとしても燃料供給が難しい。天然ガスでは苫小牧ガスの小さな充填場があるだけである。LPG であれば環境にも優しい自動車だし、インフラもそろっている。現状で可能なものを記述していくべきである。
- (会長) LPG 自動車についても併記していく。
- (委員) 40 ページに自転車に関する施策があるが、現在、原油価格高騰で自転車が増えている。自転車に関する施策も何とかしていただきたい。最近、札幌市での事故をきっかけに道路交通法が変わり、自転車は基本的に車道を走行することになったが、市内は自動車のスピードが速いため、かなり危険を伴う。自転車道があった方が安全である。
- (事務局) 40 ページの市の施策④で、自転車走行空間の整備を推進するとしている。

3. 計画素案（第6章）の審議

【質疑】

- (委員) 推進体制の図で、市から市民への報告が位置づけられていない。
- (委員) 両矢印で連携となっているから、市民への報告も含まれると考えられる。
- (事務局) この図では主に組織について図示しており、次ページにおいて、環境白書とインターネットで公表することとしている。
- (委員) 広報による報告は考えているか？
- (事務局) 出来る限り利用したいと考えているが、紙面の関係や締切が2ヶ月前であるという制約などを考えた中で利用したい。
- (委員) 環境白書はどこで手に入るのか？
- (事務局) 環境保全課、庁舎で配布している。ホームページでも全文掲載している。
- (委員) ホームページ掲載ということを出しているが、市でのインターネット人口はどの程度か？
- (事務局) 調査はしていないが、公表はホームページのみに頼ることは出来ないと考えている。
- (委員) 市のホームページから環境保全課に至る過程がわかりづらく、たどり着くのが難しい。市のホームページから直接各課に入れるようにしてほしい。ホームページで公表するというのであれば、辿り着きやすくしておくべきである。

- (事務局) 担当課に伝えておく。公表の方法についても増やす形で行っていきたい。
- (会長) 公表する場所を増やしていくということも報告書としてまとめていく。
- (委員) 57 ページでプランを作成するのは市になるのかパートナーシップ組織になるのか？同様に Do、Check、Action それぞれ誰が行うのかといった記述はないのか？
- (事務局) パートナーシップ組織と庁内推進組織には企画があるが、環境審議会にはない。重点対策で行政が実施する事項については、庁内推進組織の中で毎年進捗状況を見ながら予算要求をするなどを行っていく。パートナーシップ組織については市民・事業者・行政の3者で出来ることを企画し、実施する。
- (委員) 評価や見直し案の作成もそのときに応じて別に行われるのか？プランを作るところが評価するというだけでは手前味噌になる可能性がある。客観的に評価が出来る体制にする必要がある。
- (事務局) 評価については、環境審議会を毎年開催しているため、進捗状況の報告を行い、意見を頂く。
当市民検討会が開催された経緯としては、市民参加条例により市の大きな計画などについては市民参加を頂くこととなっている。今回の計画も策定に当たって市民検討会を立ち上げた。今後については中間見直しや全面改定の時にも市民に意見を頂いてそれを活かしていくこととなる。計画を見直す段階での市民参加のあり方が読み取れない文章となっていると思うが、計画の見直しに当たっては市民の意見を聞く場は必ず設けることとなる。
- (委員) 重点対策での排出削減量合計が7万9千トンで、全部達成しても残り16万8千トンが必要となる。重点対策というのなら7~8割は達成できる案にしておく必要がある。これを4年後まで見直さないとすると、4年たってから残りが達成できていないとやり直すには遅すぎる。目に見えたシナリオで目標値が見えてくるのなら良いが、明らかに足りないのなら積み増ししないと達成出来るとは思えない。
目標達成に向けたシナリオで、市民の取組で11万3千トンというのは重点施策に入っているが、これと7万9千トンでは約3万トンの差があり、全然足りない。市民が全部達成しても足りない分はどうするのか？
- (事務局) 重点施策は市の施策として削減量を挙げている。目標値を達成するには市だけではなく、市民、事業者、道、国などの取組があって目標を達成することとなる。また、市の施策をきっかけとして、例えば補助金なしでも機器類が導入されていくような誘発効果があると考えている。また、1人1日1.1kg削減という指標があるが、その他の指標も含めると実際には1.1kg以上減らす必要がある。家庭部門の世帯当たり7%削減の目標値を達成するには、1人1日1.5kg削減が必要となる。市民に啓発を呼びかけていくときには1人1日1.5kgとなると考えている。
- (委員) そうであるなら素案の中でも1人1日1.5kgと表記する必要がある。また、その他に国や道の施策で削減をするということだが、1人1日1.1kgから削減される6万

9千トンについては道がいつている数値であり、道の施策と重複していることになる。

(委員) 1.1 kgの根拠は、北海道環境宣言から引用しただけで、苫小牧市としてふさわしいかどうか検討されていないということであれば、市として必要であれば1.5 kgとしても良いと思う。

(委員) 重点施策の中身としては、市民や事業者も対象として入っているため、やはり重点施策の合計値が24万7千トンにならなければおかしい。現状では市民の取組での7万9千トンしかなく、計画としておかしい。事業者の取組も含め、少しでも24万7千トンに近づかなくてはならないということであり、具体策の部分から詰め直してほしい。

(会長) 事務局には、次回検討会までに納得のいくような方向でまとめてほしい。時間なので今日は会を閉じさせていただく。次回は検討会としての報告書を検討していただくが、報告書の原案は会長と副会長でまとめたい。一任いただけるか？

(委員一同) 異議無し。

(委員) 将来地球は冷えると主張する地質学者がいて、温暖化とは逆の議論をしている。エコロジーに対しても偽善で意味がないと主張する本も出ている。

(会長) そうした意見は承知している。しかし、国や世界の状況は二酸化炭素削減に動いているため、市もその方向で動く必要がある。
時間となったため、第4回市民検討会を閉会する。

4. その他

(事務局) 次回は10月15日(水)、最終回となっています。よろしくお願いいたします。